

平成30年11月27日

SHIMADA GREEN CITY JAPAN

官民連携事業の推進のための
中部ブロックプラットフォーム首長意見交換会

島田市の「官民連携」の取り組みについて



島田市長 染谷絹代

島田市の紹介



■平成17年、旧島田市と旧榛原郡金谷町が合併

■平成20年、旧榛原郡川根町を編入

■人口：98,765人 (H30.9末)

■世帯数：37,757世帯 (H30.9末)

■面積：315.70km² (県内35市町中5位)

*市域の2/3が森林。新東名より北は山間地で、高齢人口比率50%以上の集落が多数点在

■財政規模：約358億円

(H29一般会計決算額)

■財政力指数：0.76

■公債費負担比率：16.7%

■経常収支比率：89.9%

島田市の紹介



島田市の紹介



全長897.4m = 「やくなし」 = 「厄無し」
「長い木の橋」 = 「長生きの橋」



島田市の紹介

SL動態保存のさきがけ



8,700株のバラが咲き誇る



約9,000人が大井川を駆ける



日本三奇祭のひとつ



越すに越されぬ...



島田市の公共施設の整備状況と課題

■ 新市民病院の建設



- ◆ 地上7階建て 445床
- ◆ 本体工事費約160億円、総事業費は200億円規模
- ◆ 2021年3月開院に向け工事中

■ 賑わい交流拠点の整備



- ◆ 新東名島田金谷IC周辺に、観光拠点として駅、マルシェ等を整備
- ◆ JA、大井川鐵道、NEXCO中日本と市の4者が連携して推進
- ◆ 2020年春頃に開業予定

■ 更新費用不足への対応



★市民にとって真に必要な施設の整備と並行して、公共施設全体の品質・総量・管理費の見直しに向けた取組が必要



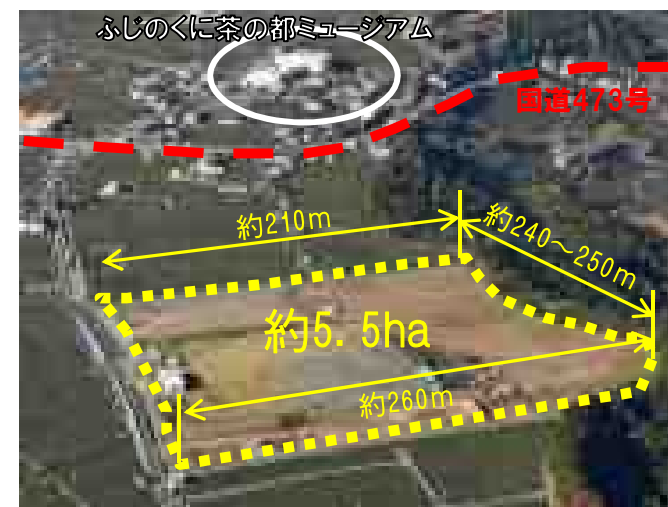
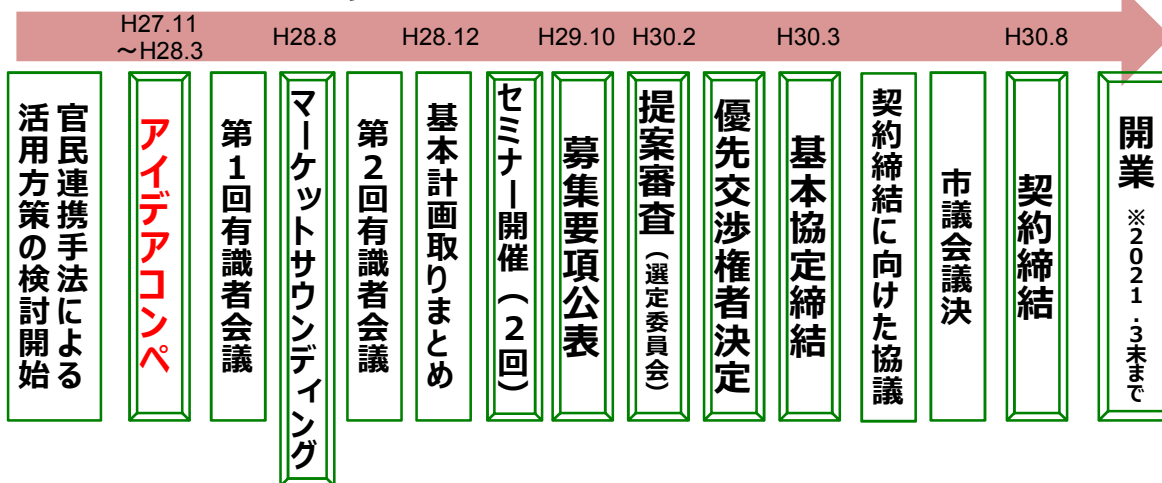
「公共施設マネジメント」の推進

島田市と官民連携の出会い ～旧金谷中学校跡地活用事業～

事業の概要：約40年間低利用となっていた中学校跡地の活用に官民連携手法を導入

- 経緯 ◆平成21年6月、「富士山静岡空港」開港
→ 空港からほど近い当地に「メッセ」を整備する構想を静岡県と島田市で推進
- ◆平成25年12月、社会情勢変化により「メッセ」断念
→ 県と市が共同で「官民連携」に乗り出した。

官民連携の道のり



- 特徴 ① 県と市の共同取組
→ 県が絡むことで民間事業者の関心度向上に好影響
- ② 「アイデアコンペ」の実施
→ マーケットサウンディングの事例が少ない中で賞金付きのコンペを実施してアイデア募集



環境型観光施設（アウトレットモール）の
イメージ



環境型健康施設（健康維持・増進施設）の
イメージ

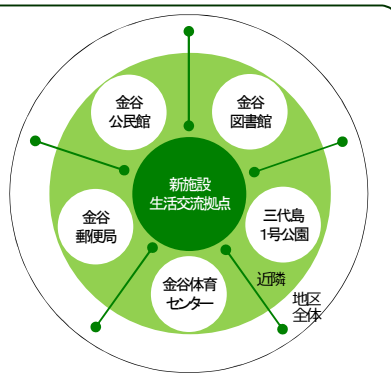
官民連携ネクストステージ ～金谷地区生活交流拠点整備・運営事業～

事業の概要：廃止した旧町役場庁舎跡地の活用への官民連携手法の導入
小規模施設整備＋既存周辺施設を含めた維持管理＋多様なソフト事業

目指す効果：住民向けの「**生活交流拠点**」を官民総がかりで形成
(IC周辺整備やアウトレットモールの対極)

事業コンセプト (案)

新たな金谷地区のシンボルとして、
子どもからお年寄りまで誰もが訪れ、
「つながり」が生まれる生活交流拠点



官民連携への期待

- ◆ 民間事業者の「柔軟な発想」と「スピード感」
- ◆ 「小規模施設整備」＋「多様なソフト事業」へのPFI導入実現を通して、市内外の同様の課題解決に向け横展開を図りたい。

官民連携に向けた工夫

- ◆ 「資産活用課」の設置：ハードとしての資産のあり方とソフト事業を通じた活用のあり方を、実践を通して両面から検討
- ◆ 地元事業者との対話と知識の共有：地元の実情を理解する事業者向けのセミナーの実施



官民連携のハードル

- **可能性調査等、先立つ出費に見合うだけの効果が期待できるかどうか不透明。**
 - ・スタートから高いハードル。はじめの一步を踏み出すために何かしらの手助けが必要。
- **アドバイザー、モニタリングといった副次的な業務に対する庁内理解が必要。**
 - ・従来手法にはないプロセスと費用が伴うことを心得ておくべき。
- **スケジュールが上手く「はまる」とは限らず、検討したものの断念せざるを得ない場合もある。**
 - ・「必要な施設をタイムリーに供給する」というミッションを様々なプレイヤー間の調整の下で進めるのは至難の業と思われる。（民間のスピード感とのギャップ）
- **民間事業者とのお付き合いのしかたが難しい。**
 - ・公平性をどこまで担保するのかや、企業の知的財産保護のあり方など、議論の余地あり。
 - ・マーケットサウンディングの手法の確立は、本市において今後具体的な検討が必要な状況。
- **「官」と「民」は基本的スタンスが違う。**
 - ・民間はあくまでも「ビジネス」である。リスクに対しより敏感。
- **社会的な理解の深まりや体制の整備は？**
 - ・公的分野の担い手は誰？ → 官民の適切な役割分担への更なる理解促進が必要。
 - ・官民間わず社会的な人材不足にどう対応するか？
 - **公共建築に対する関心を高め、幅広く担い手育成に繋げる取組『島工生点検隊』**

担い手育成プロジェクト ～島工生点検隊～

	島工生点検隊	が
～ 高校生たちは見た！ 公共施設の実態！ ～		行
Presented by  静岡県立高田工業高等学校 <small>(National Institute of Technology)</small>		く
 静岡県		！



担い手育成プロジェクト ～島工生点検隊～



まとめ

- 官民連携は、人口減少・少子高齢化社会を切り開く「突破口」
 - ・社会情勢が変わり、従来型の手法のみでは立ち行かなくなった。
- 公共サービス提供の新たな仕組みをみんなでデザイン
 - ・特に地元の民間事業者の関与がポイント。
- 「官官連携」でアイデアの共有とアレンジを
 - ・自治体ごとに異なる地域課題の解決に向け、共通して使えるアイデアは横展開し、それぞれの地域の実情に合うように工夫して、（失敗も含め）たくさんの事例を重ねていくことが必要。



ご清聴
ありがとう
ございました。

島田市商工会キャラクターデザイン

おしまちゃん